

## V 水産資源調査

### I 調査目的

イワシ類、アジ、サバ、スルメイカの資源動態を把握し、漁況予報の精度向上に資するとともに、漁業経営の安定に寄与する。

### II 調査内容

1. 調査期間 昭和49年5月～12月
2. 調査場所 鯨ヶ沢町、青森市後潟
3. 調査員 主担 技師 沢田兼造  
副担 部長 斎藤重男
4. 調査項目
  - (1) 漁況 イワシ類、アジ、サバ、スルメイカ
  - (2) 多項目調査 体長、体重、性別、生殖腺重量、肥満度、胃内容重量および種類、パンチング調査
  - (3) 回游移動 スルメイカ標識放流
5. 調査方法
  - (1) 東北区、日本海区水産研究所の委託調査要綱による

### III 調査結果

#### 1. 漁況

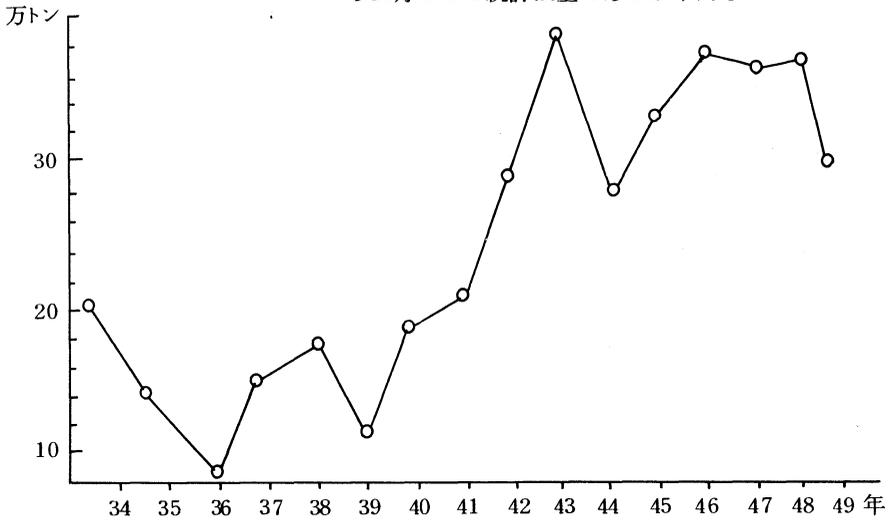
第1表 沿岸重要魚種漁獲量

魚種	漁獲量
マイワシ	1,190トン
カタクチイワシ	3,084
ウルメイワシ	0
マアジ	60
マサバ	160,290
スルメイカ	79,328
計	243,952

昭和49年1月から10月までの沿岸重要魚種の本県総漁獲量は第1表のとおり、昨年同期（254,603トン）の96%である。

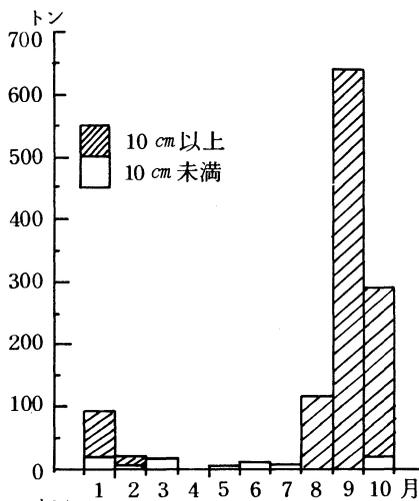
また昭和34年以降の経年漁獲傾向は第1回のとおりである。

第1図 沿岸重要魚種経年漁獲量 ( 経年漁獲量図のうち昭和49年分については、1月から10月までの統計数量である以下同じ )



36年以降漁獲量は増加し、43年には最高に達しているが、漁獲量はスルメイカ、マサバの好、不漁によって大きく左右される。

(1) マイワシ



月別の漁獲量は第2図のとおりで、本年は10cm以上 (1,119トン94%) の漁獲が多く、10cm未満 (71トン、6%) の漁獲は少なかった。

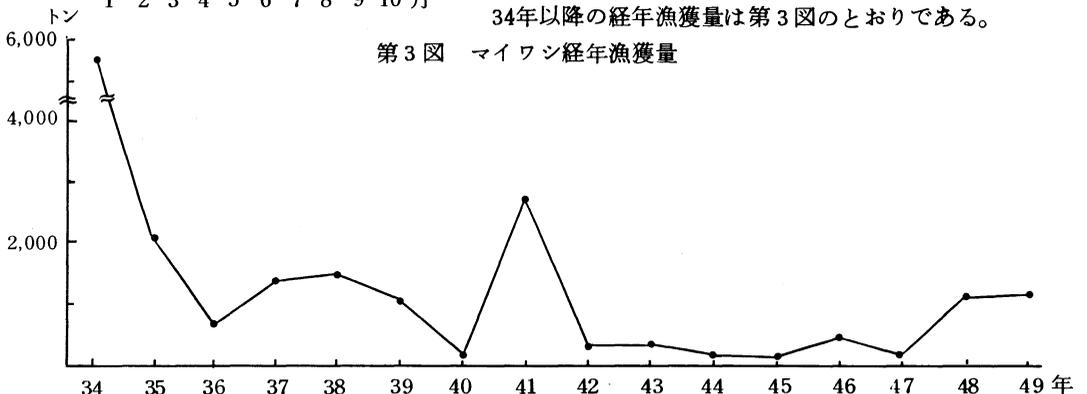
また、本年1月から10月までの漁獲量は1,190トンで、昨年同期 (845トン) の1.4倍であるが、むつ湾内では、310トン (25.3%) が漁獲されている。

市町村別に見ると、八戸市 (840トン、71%)、青森市 (166トン、14%)、平館村 (114トン、9.6%)、三沢市 (39トン、3.3%) の順となっている。

なお、漁業別に見ると、まき網 (839トン、70.5%)、小型定置網 (283トン、20%)、大型定置網 (63トン、5.3%) の順で漁獲されている。

34年以降の経年漁獲量は第3図のとおりである。

第3図 マイワシ経年漁獲量

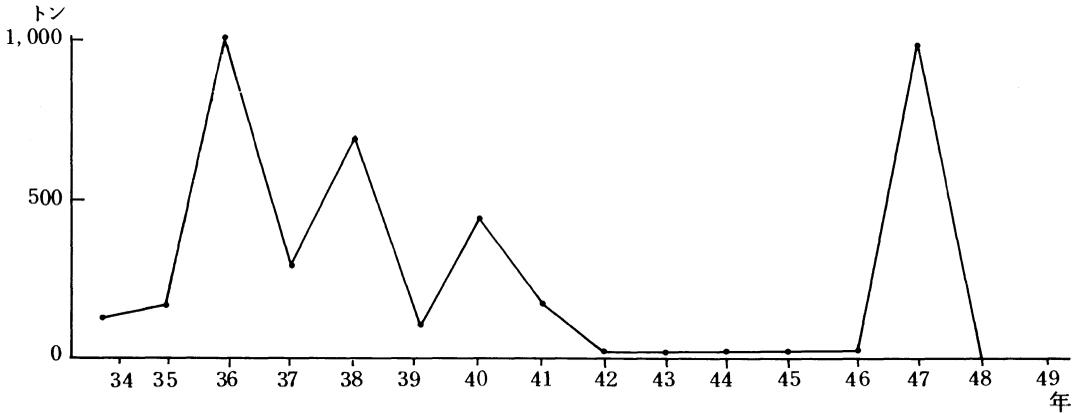


これによると本県沖でのマイワシ漁獲量は上昇傾向にあり、特に47年以降顕著である。

(2) ウルメイワシ

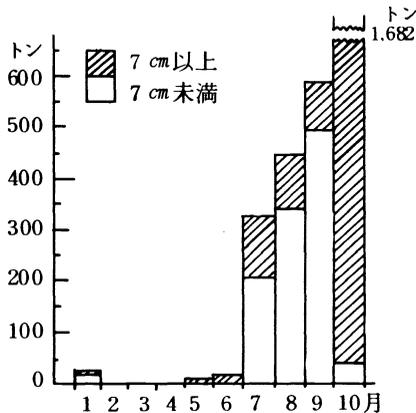
昭和47年に三沢市の刺網で約1,000トン近く漁獲されたが、48年、49年は皆無の状態であった。  
34年以降の経年漁獲量は第4図のとおりである。

第4図 ウルメイワシ経年漁獲量



(3) カタクチイワシ

第5図 カタクチイワシ月別漁獲量



月別、体長別、漁獲量は第5図のとおりで、本年は7cm以上2,020トン(65%)、7cm未満1,064トン(34.5%)で昨年同様7cm以上の漁獲が多かった。

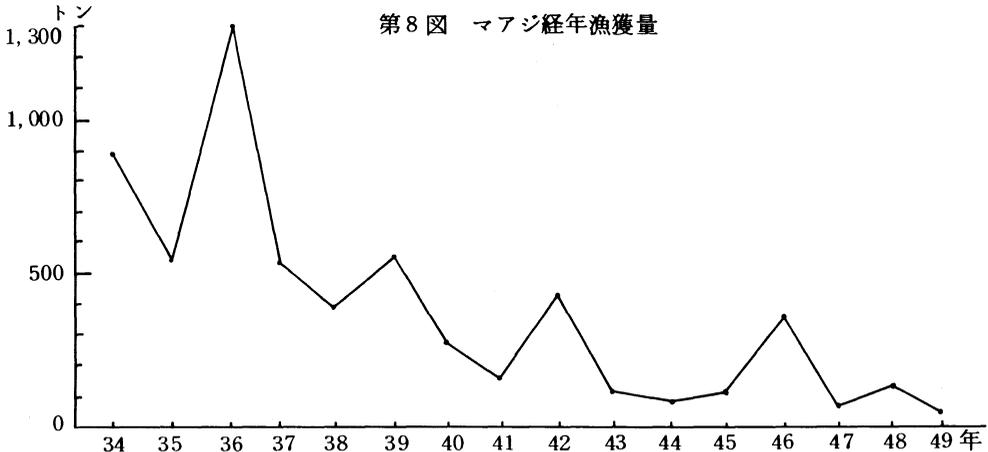
また1月～10月までの漁獲量は3,084トンで、昨年同期(3,703トン)78.3%であるが、市町別にみると三沢市(1,522トン、49%)、八戸市(1,302トン、42%)、六ヶ所(113トン、4%)、青森市(65トン、2%)、平館村(45トン、1.5%)、脇野沢村(32トン、1%)の順となっている。

なお漁業別にみると、地びき網(1,434トン、46%)、まき網(1,227トン、39%)、刺網(243トン、8%)、小型定置網(141トン、4.6%)の順となっている。

34年以降経年漁獲量は第6図のとおりである。

34年以降の経年漁獲量は第8図のとおりである。

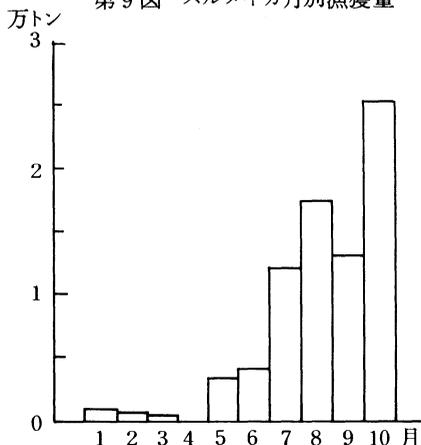
第8図 マアジ経年漁獲量



これによるとマアジは年々減少の傾向にある。

(4) スルメイカ

第9図 スルメイカ月別漁獲量



月別漁獲量は第9図のとおりである。

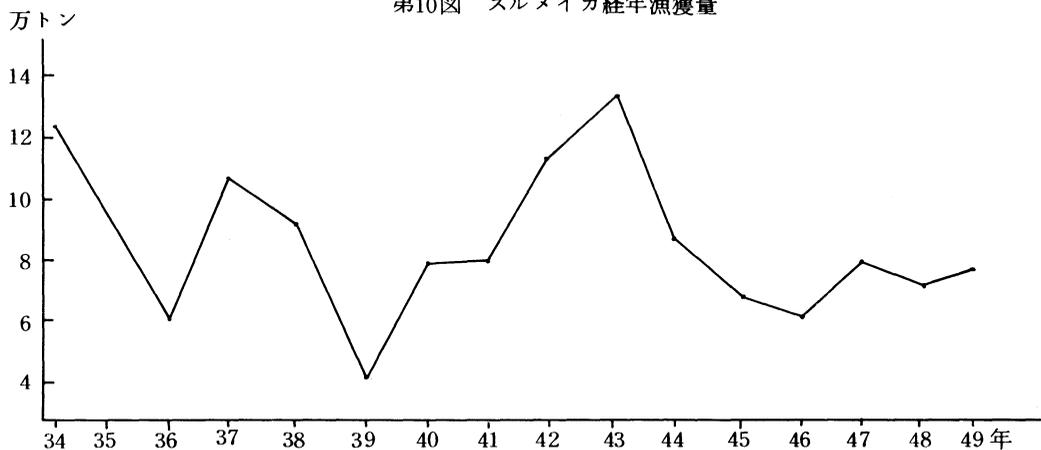
本年1月から10月までの漁獲量は79,328トンで、昨年同期(61,438トン)の1.3倍である。

市町村別に漁獲量をみると、八戸市(47,434トン59.8%)、大畑町(20,815トン、26.2%)、小泊村(3,168トン、4%)、青森市(3,009トン、3.8%)、六ヶ所村(1,323トン、1.7%)の順でこの5市町村で総漁獲量(79,328トン)の95.4%を占めている。

漁業別漁獲量は、一本釣が殆んどであるが、この外沖合底びき網、サンマ流網、遠洋底びき網、小型定置網、刺網等によって漁獲されている。

34年以降の経年漁獲量は10図のとおりである。

第10図 スルメイカ経年漁獲量



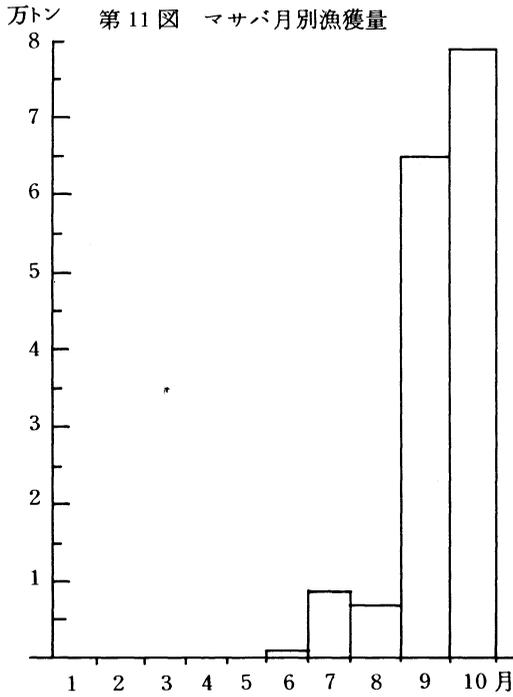
43年を頂点として年々減少の傾向にある。

46年から上昇傾向を示しているが、これは船凍イカが増えたことに起因している。

(5) マサバ

月別漁獲量は第11図のとおりであるが、本年1月~10月までの漁獲量は160,290トンで昨年同期(188,534トン)の85%である。

第11図 マサバ月別漁獲量



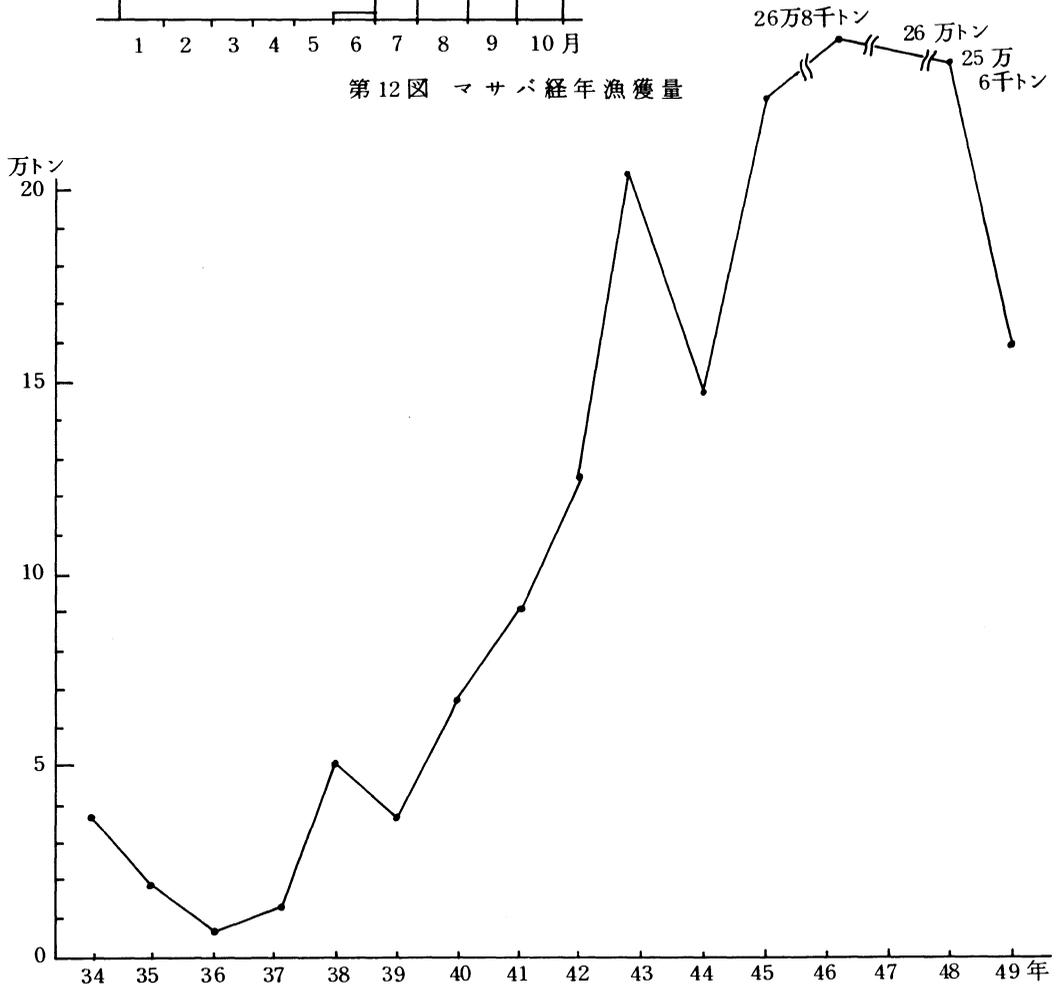
市町村別漁獲量をみると、八戸市 (158,843トン, 99.1%), 三沢市 (610トン, 0.4%), 六ヶ所村 (308トン, 0.2%) の順である。

また、漁業別漁獲量をみると、まき網 (158,000トン, 99%), 小型定置網 (700トン, 0.4%), 地びき網 (587トン, 0.4%) の順である。

34年以降経年漁獲量は第12図のとおりである。

これによると、漁獲量は年々上昇の一途を辿り、46, 47, 48年には26万トン台に達している。

第12図 マサバ経年漁獲量



(6) 指定地における漁獲量

a 鱈ケ沢

第2表 鱈ケ沢におけるスルメイカ漁獲量

(単位：kg)

沿 岸				沖 合			
月	隻 数	漁 獲 量	1 隻当り漁獲量	月	隻 数	漁 獲 量	1 隻当り漁獲量
7	240	99,760	415.7	7			
8	35	7,410	211.7	8	43	83,695	1,946.4
9	30	7,790	259.7	9	37	63,180	1,707.6
10				10	1	110	110.0
11				11	1	4,522	4,522.0
12	70	2,040	29.1	12			
計	375	117,000	312.0	計	82	151,507	1,847.6

スルメイカ漁獲量は269トン、昨年(464トン)の58%であった。

b 後 潟

沿岸重要魚種の月別漁獲量は第3表のとおりである。

第3表 後潟における漁獲量

(単位：kg)

	カタクチイワシ			マイワシ			マアジ			マサバ			スルメイカ		
	統 数	漁 獲 量	一漁ケ統獲当り量	統 数	漁 獲 量	一漁ケ統獲当り量	統 数	漁 獲 量	一漁ケ統獲当り量	統 数	漁 獲 量	一漁ケ統獲当り量	統 数	漁 獲 量	一漁ケ統獲当り量
5													12	292	24.3
6	1	10	10	20	1,737	86.9				20	1,803	90.2	36	2,369	65.8
7	32	8,905	278.3	18	10,191	566.2	2	10.5	5.3	28	1,285	45.9	41	1,239	30.2
8							8	4,923	615.4	76	20,314.3	267.3	1	7.5	7.5
9				107	12,633.5	118.1	101	5,126	50.8	112	58,857	525.5	14	25	1.8
10	4	650	162.5	116	55,863	481.6	131	11,674	89.1	175	40,589	231.9	16	36.5	2.3
11	78	21,720	278.5	73	23,371	320.2	99	20,863	210.7	113	22,504	199.2	14	352	25.1
12	55	29,880	543.3	37	9,675	261.5	16	2,092	130.8	14	750	53.6	15	153	10.2
計	170	61,165	359.8	371	113,470.5	305.9	357	44,688.5	125.2	538	146,102.3	271.6	149	4,474	30.0

本年は、各魚種とも昨年に比し好漁であった。

即ち昨年に比べカタクチイワシは4倍(61トン)、マイワシは1.3倍(113トン)、マアジは7倍(44トン)、マサバは4.9倍(146トン)、スルメイカは1.1倍(4トン)である。

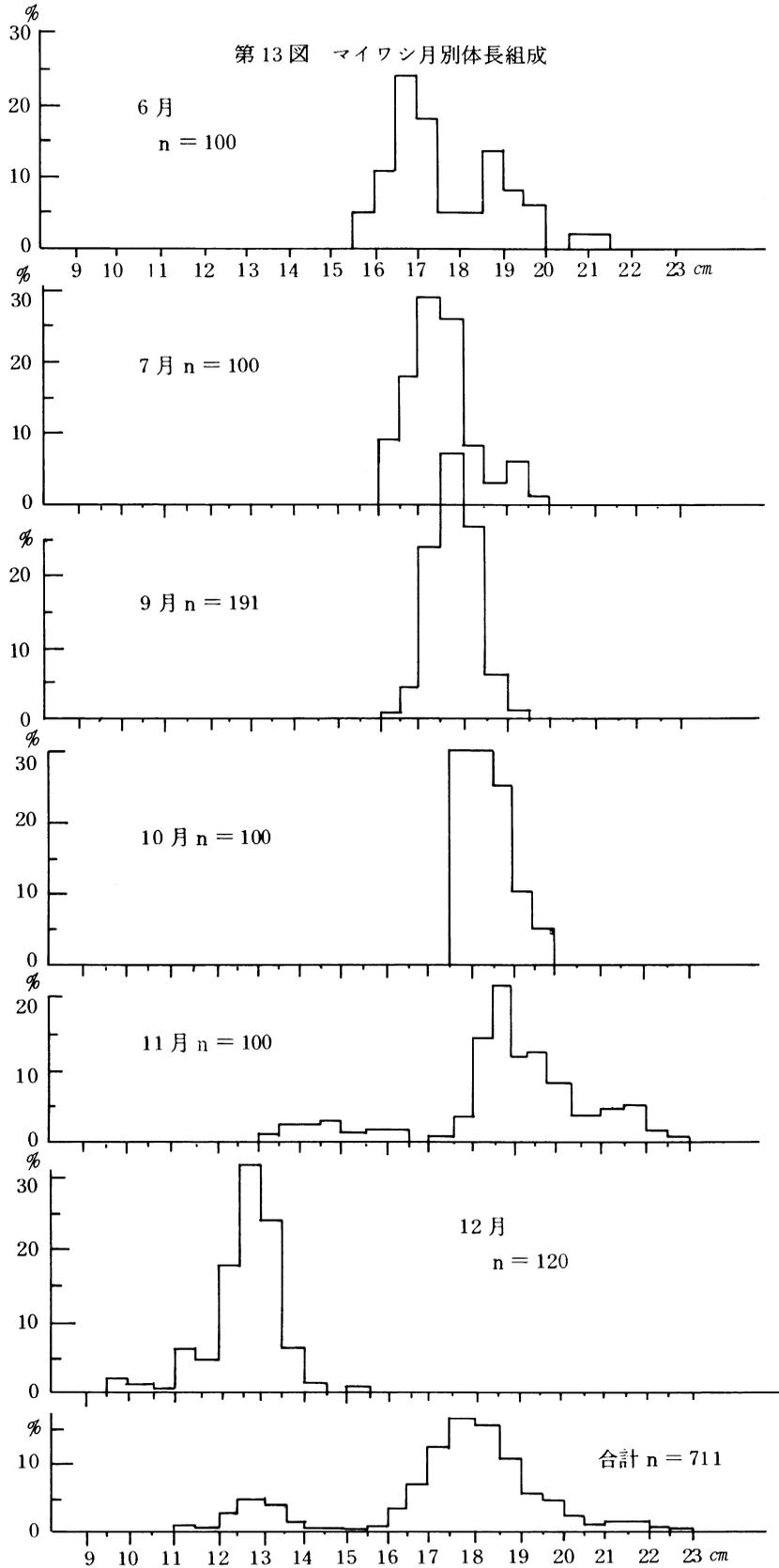
1ヶ統あたりの漁獲量をみると、昨年に比べカタクチイワシはやや下廻っているが、他魚種は上回っている。

2. 多項目調査

(1) マイワシ

月別体長組成をみると、第13図のようになる。

第13図 マイワシ月別体長組成



6月……体長は15.5～21.0 cmの範囲に分布し、モードは16.5 cm。  
 7月…… “ 16.0～19.5 cm “ “ 17.0 cm。  
 9月…… “ 16.0～19.0 cm “ “ 17.5 cm。  
 10月…… “ 17.5～19.5 cm “ “ 17.5 cm。  
 11月…… “ 13.0～22.5 cm “ “ 18.5 cm。  
 12月…… “ 9.5～15.0 cm “ “ 12.5 cm。

以上、総合してみると体長は9.5～22.5 cmの範囲に分布し、主モードは11.5 cmにみられ本年は例年と異なり大羽イワシが主体である。

(2) カタクチイワシ

月別雌雄別体長組成は不明の個体が多く、記録できなかった。

7月のモードは13 cm、8月は11.5 cm、9月は8 cm、11月は9 cm、12月は12.5 cmであり、以上のように7、8月には大型群が来遊し、以後は小、中、大の混合群であった。

(3) マアジ

尾叉長および体重は第4表にあるが、平均尾叉長およびモードは12月が最も大きくなっている。

第4表 マアジの尾叉長および体重

調査月日	雌雄	尾数	尾 叉 長		体 重	
			分 布 幅	平 均	分 布 幅	平 均
8月1日	不明	31	6.1～8.5 cm	7.0 cm	2.7～8.2 g	4.3 g
8月6日	“	31	7.0～14.1	8.6	3.9～13.1	7.4
9月17日	“	31	8.2～12.5	10.1	6.0～22.0	12.0
9月30日	“	30	8.0～11.0	9.4	6.0～14.8	9.6
10月14日	“	30	8.9～13.5	10.0	8.0～30.5	12.1
11月6日	“	30	9.7～14.3	11.0	12.0～39.0	18.0
11月6日	“	30	9.2～11.5	10.3	8.7～20.7	14.2
11月16日	“	30	10.5～13.7	12.1	15.0～33.0	23.0
11月21日	“	30	10.0～12.7	11.4	15.0～26.0	19.8

(4) マサバ

月別尾叉長組成は、6月には18～24 cmの範囲に分布し、モードは20 cm、7月には20～23 cmの範囲に分布し、モードは22 cm、8月には9～21 cmの範囲に分布し、モードは19 cm、9月には11～21 cmの範囲に分布し、モードは18 cm、10月には12～20 cmの範囲に分布し、モードは15 cm、11月には13～23 cmの範囲に分布し、モードは15 cm、12月には14～20 cmの範囲に分布し、モードは16 cmであった。

(5) スルメイカ

イ 鱈 ケ 沢

パンチング調査から得られたスルメイカの外套長を月別にまとめてみると、6月には14～23 cmの範囲に分布し、モードは19 cm、8月には20～27 cmの範囲に分布し、モードは21 cm、9月には18～27 cmの範囲に分布し、主モードは20 cm、21 cm、11月には14～30 cmの範囲に分布し、主モードは19、20、27 cmの三峯がみられる。12月には20～25 cmの範囲に分布し、モードは22 cmである。

ロ 後 潟

月別外套長組成を見ると、5月では5～16 cmの範囲に分布し、モードは10 cm、6月には9～18 cmの範囲に分布し、モードは13 cm、7月には8～19 cmの範囲に分布し、モードは12 cm、9月

には 11 ~ 15 cm の範囲に分布し、モードは 14 cm、10 月には 12 ~ 18 cm の範囲に分布し、モードは 15、16 cm にみられる。

以上を総合してみると、5 ~ 19 cm の範囲に分布し、モードは 13 cm にみられる。

### 3. 回 遊 移 動

スルメイカの標識放流と再捕結果を第 5 表、ならびに第 14 図に示した。

第 5 表 スルメイカ標識放流と再捕状況

放 流 年 月 日	放 流 位 置	放 流 尾 数	再 捕 年 月 日	再 捕 位 置	標 識 番 号
S 49 年 6 月 25 日	青 森 市 後 瀧 前 沖	597 尾	S 49 年 7 月 2 日	平 館 前 沖	1 尾 青森 31
			S 49 年 10 月 4 日	兵 庫 県 居 組 沖	1 尾 青森 40
計		597 尾		2 尾	

第 14 図 スルメイカの標識放流と再捕関係図

